

7月の生活表

2023年 7月

聖マリア幼稚園

年主題：つながって ～今、わたしを生きる～

月主題：心ひらかれて

保育日数（20日 / 13日）

月目標：＜3歳児＞

- ・欠席の友だちのこと、また自分の身の周りの心配や喜びを覚えて祈る
- ・保育者や友だちとの関わりの中で、いろいろな思いを表わす
- ・砂・泥・水などの感触を楽しむ

＜4・5歳児＞

- ・聖書物語に繰り返し触れ、一人ひとりの感じ方で思いを表したり静かに受け止めたりする
- ・互いに思い伝え合うことを喜ぶ
- ・体をいっぱい動かし、遊びを存分に楽しんだり、絵本やお話を通して物語の世界を楽しむ

今年も夏至を過ぎ、本格的な夏を迎えようとしている今、目いっぱい楽しめる日中の長さが、徐々に短くなっているなんて何か不思議な感覚になりそうですが、神様のお創りになられた大自然では、日々、時が過ぎていくのです。幼稚園の一学期もあと20日、いえ実際は2週間です。とはいえ、夏休みの間も、日々の人数は異なるものの、一人を除いては全員が参加されます。人数の少ない日に焦点を当てながら、教員も研修への参加や決められた有休の消化に努めなければなりません。今、家庭庁で様々な案が提供され始めていますが、現場の教員からすればその制度は何かチグハグなものですね。お母さん方への配慮を行えば現場の人手不足で、その仕事量に耐えかねて保育園では集団退職の実態がある。日本の制度は、何を基準に考え、子どもたちを保護者の方々をどの様にサポートしようと思っているのか？色々考えさせられます。「こどもがまんなか」のキャッチフレーズは、まずは子どもたちが安心できる家庭であり、社会性を育む為の集団として私たちの場があり、その中で子どもの存在・立ち位置なんですね。子どもたちを真ん中にするには、家庭と園での連携で何を育てようとしていくのか？今に大切なことと、将来的に長いスパンで考えねばならないことの双方を大人は考えておかねばなりません。子どもが自身の人生を「生きていけるように」「さまざまなことに対応できるように」と考えたら、今この年齢で、自立に向けて指導しなければなりません。まずは生活面の自立。自分で食べる。片付ける。おむつが取れる様に手立てを考える。その為には敢えて不快感を感じる事からの再出発からかもしれません。そして、「気持ちいい」と感じ、トレーニングパンツで「しまった!! 恥ずかしい」に気づき、その感覚を積み重ねている内にトイレでしなくては、に結びつきますように。また食事に於いてもダラダラと食べるのではなく、食べさせてもらうのでもなく、ある程度は自分で食べてみる事からの練習と時間が来れば食事を下げることも必要かもしれません。ご家庭で取り組んで頂くのにとっても大切な「時」が夏休みです。夏季お預かりの利用の有無ではなく、自分の「できた」で自信が付きますように。そして、プールがあります。体全身、大切な所へのケアもしっかり認識ができますよ。体が健康であるということは、基本的な生活習慣があった上で、清潔に保つこと、そのことも「気持ちいい」に繋がります。ご家庭の奮闘と私たちのフォローが子どもたちの成長をより健康に、心身共の成長に繋がりますように頑張ります。

《チャプレンコーナー》

年主題：つながって ～今、わたしを生きる。～

年聖句：7月月間主題：心ひらかれて

6月月間主題：見つける

月聖句：主よ、朝ごとに、わたしの声を聞いてください。（詩編 5：4）

詩編は旧約聖書の真ん中あたりに収められており、長短入り乱れた150編の詩によって構成され、喜び、悲しみ、希望、絶望、等々、人間の赤裸々な思いが綴られています。

さて今月の主題聖句は、毎朝神様にお祈りを献げる、という意味の聖句です。さわやかな早朝に、清々しい気持ちで神様にお祈りを捧げてきたのでしょう。ただ、読み進んでいくと、そのような印象から離れていってしまいます。「神よ、彼らを罪に定め、打ち倒してください。」敵に対する恨みの歌となっています。神様の愛を説く聖書に、このような面があることに、私たちは面食らってしまいます。この箇所を理解するには、当時のユダヤの人々が置かれた苦しい状況を理解しなければなりません。ユダヤの国は、地中海に面する小さな国です。西を超大国エジプト、東を大陸から進出してきた超大国に挟まれ、絶えず大国の動きに翻弄されてきました。周囲の戦争に巻き込まれ、ユダヤの国が荒廃させられることもたびたびありました。ユダヤの人々は、自分たちを苦しめる敵が、あまりに大きく、自分たちの力では全く太刀打ちできないことを深く理解していました。そのため神様への信仰が、深く、真剣なものになっていったのです。この世の理屈では、大国の利益が優先され、たとえ不正であっても大国の言うことがまかり通る中にあって、本当に正しいことを求め、弱く傷ついた者を助けてくれるよう、この世を越えた方である神様に祈り求めたのです。激しい表現は、弱い者への愛から生まれたものなのです。

この詩は、次のような言葉で結ばれています。「あなたを避けどころとする者は皆、喜び歌います。」苦しみを乗り越え、最後は喜びへとたどり着く、これが聖書が示す信仰の姿です。

おたんじょうび おめでとうございます

7月にお誕生日を迎えるお友達はおられません。

＜生活指導＞

☆一日の気温・湿度を気にしながら、体調を整えましょう。

- ・自然の風を体感させましょう。（クーラーの使用頻度／適温設定27度に）
- ・手洗い、うがい・毎日の入浴（シャワー）・シャンプー・爪切り、耳あかなど、こまめにチェックしましょう。子ども自身も気付くように。
- ・冷たい物の暴飲暴食を避け十分な休息・バランス良い食事を摂りましょう。

☆夏の自然を親しみ、豊かな経験と活動をさせましょう。

- ・身近な自然に触れて観察し、不思議な世界を知らせましょう。
- ・夏の夜空・夕立・雷等の今の自然現象をご家族と共に親しんでみましょう。

☆一学期に身につけた生活習慣を崩さないように心がけましょう。

☆今から夏休みの計画をしっかりと立てて、子ども自身の心身共の自律・自立（親の我慢が大切です）に向かって様々な経験を良い機会として捉えましょう。

- ・時制（時の刻みを自分の身体で感じられるように）を身につけてみましょう。
- ・家の中でのお手伝いの計画（役割分担）を通して、文字・数字、そして段取りをつけることなどにも親しむ機会を持ってみましょう。
- ・新しい経験の中に生き物の図鑑や地図などの活用をお勧めします。
- ・絵本をいっぱい読んであげられるように、目標を決めるのも大切です。（本の冊数より、繰り返しながら一週間に何日読んであげられたか？）
（読めても読んであげて下さい。子どもが読む時は声を出させて下さい。）

☆安心・安全に心がけましょう。

- ・子どもたちの自転車の独り乗りには、必ず！前を走らせて下さい。

＜クラス担任より＞

〔花組〕

夏めく太陽、汗ばむ陽気...梅雨明けを待たずしてマリアはプール開きとなり、子どもたちの歓声が響き渡りました。毎年、お天気さえ良ければほぼ毎日プール遊びを楽しんでいます。学校へ行けばプールは数える程にしかなく、泳ぐのが苦手ならばただしんどい時間になってしまう...。とにかく楽しい！が一杯のプール遊びは幼

稚園の「今だからこそ！」ではないかな？と考えると、その時間を大切に、より楽しくより有意義で安全なものにしてあげたいと思います。今年度から水着用のオムツの着用をお願いすることとなり、保護者の皆様にはご理解とご協力をいただきありがとうございます。子どもたちに「オムツ(水着用)をしているから安心だよ！」というのではなく、あくまでも衛生面を考慮するものです。引き続き排泄の自立に向けて園でも援助をしてゆきますので、ご家庭でも引き続き子どもたちと一緒に排泄の自立に向けて向き合ってくださいますようお願い申し上げます。

6月の半ばからスタートした「七夕制作」。切る・貼る・折る、だけでなく絵の具も使い楽しみながらみんな一生懸命に取り組みました。ハサミで切ることの難しさを感じながら、真剣に切る方と（紙を）持つ方、両手を必死に動かして、切る線、切りたい形に目を凝らして見つめて…。糊もただ指に付けて塗って貼るだけ、何て簡単なことではなく！貼りたい物の大きさに合わせた糊の量をご自分の指の先に着けて、しっかり塗るべき場所に塗り、貼るべき場所を目掛けて貼る！何でもないことの様ですが、先生の説明（お話）をしっかりと聞く力、聞いたことを実際に自分でやる為には手先を動かし、目を使い、椅子に座っていられるように足も踏ん張り、最後までやる気を持続していられる力も必要です。本当にみんなよく頑張りました。どうぞ子どもたちが一生懸命に作った「七夕のお飾り」楽しみながら一緒に飾りいただけたら嬉しいです。

『心ひらかれて』7月の月主題です。入園から3ヶ月が経ち、子どもたちにとって幼稚園が安心してのびのび出来る場所となっているかな？お友だちの存在に良い刺激や影響を受け合うことが出来ているかな？もっともっと子どもたちが自分の思いを表現して、もっともっと心を解き放って遊ぶことが出来るように、自由遊びの時間も設定保育の時間も子どもたちの思いを大切に過ごしてゆきたいと思います。

さあ！一学期もラストスパートです！「宿題のない夏休み」も近づいてきましたね！素晴らしい時間です！「楽しい！！」と笑う子どもの姿、一緒に笑って遊んで…幼児期は本当に大切でとっても密な時間で、そして…あっ！という間です。どうぞ、「今だからこそ！」を感じながら、かけがえのない時間を逃さず大切に過ごせるように、保護者の皆様も心のご準備を！その為にも今一度健康管理にも留意していただきますようお願いいたします。一学期のお終いには【夏のお楽しみ会】もごさいます！どうぞお楽しみに！これから来る厳しい暑さにも負けずみんなで元気いっぱい駆け抜けましょう！

【赤組】

外にいただけで額にじんわり汗がにじみ出て「暑い〜！」と思わず口に出てしまう、そんな京都特有の蒸し暑さを感じる梅雨真っ只中です。園庭には子どもたちが待ちわびていたプールが設置されました。「やったー！プールだ！」と毎日プール遊びを楽しみにしている赤組さんです。そんな赤組さんですが4月当初の登園時はまだ親御さんと離れ難かったり、幼稚園の様子を見ながらの登園もしばしば見られました。けれどすっかり赤組の生活に慣れて自信たっぷり登園の子どもたち。「おはようございます！」と朝のご挨拶を元気にしながらホールへ入ってきます。また、私を見つけるとニヤニヤしながら隠れて忍者のようにササッと靴箱へ向かうお友だちもいて、朝からそのように楽しめる余裕が出てきたことに成長を感じます。どんな様子であっても「今日も幼稚園へ来てくれてありがとう」と子どもたちの笑顔を見て日々感じています。明日から7月。進級して早3ヶ月、1学期は残り20日となりました。「夏」ならではの遊びや体験が出来ることを見つけて思いっきり楽しんでいきたいと思います。

赤組になってお当番活動が始まり、昼食後のうがい、歯磨き、そして牛乳注ぎなど沢山の新しいことに挑戦してきましたが、子どもたちを見ていてまさに「失敗は成功のもと」でした。例えば、牛乳注ぎでは、注ぐ前のキャップを開ける時点で勢い余って瓶を倒してしまったり、恐る恐る注ぐと瓶のお尻からミルクが垂れてしまったりと、目に見える失敗はもちろん付きものです。けれどそこで子どもなりに「やってしまった」と感じ失敗の経験をしたからこそ次に行う時は「この前こぼしちゃったから気をつけよ」と子ども自身が再挑戦して「できる」ことへ結びつけるのです。何ごとも経験しないと学べないことを改めて感じ、それを子どもたちが自然とできていたことに感心しました。また、「分級」という赤組だけで過ごす時間があります。私の右に先頭当番、左に尻尾当番が座り、それぞれの隣に当番でない子どもが並んで座っていきます。ある日、赤組の全体と男女別の人数を数えて左右対称に、そして異性が隣に座れるようにしてみようとみんなで考えました。だって、神様が創ってくださった大切な仲良し男と女ですから。すると「そこが女の子同士になってるから〇〇くんが間に行ったらいいと思う」などなかなか賢い赤組さん。そこで次からはみんなに任せると伝え、次の日を迎えることにしました。「ここそこを変えても出来ない」と頭を悩ます1人のお友だち。それを見て他の子も手伝いますが上手くいきません。助けを求められたので全体で再度考えて見るこ

にしました。その日はお当番さんが2人とも女の子であり、そこは固定されるため綺麗に男女別では座れないのです。「そんな日もあるのか!」と新しく発見した子どもたち。その日以降はみんなで相談しながら子どもたちだけで座れるようになってきました。こうして新しい気づきがあり、それを次へと繋げられているのです。このように毎日成長を見せてくれる子どもたちを見て嬉しく、また私も今以上に様々なところにアンテナを張り成長を援助していこうと思います。

さて、6月から作り始めた「七夕のお飾り」ですが、これまで制作したお飾りを保育室のドアに飾ると「こんなに作ってたんや」と驚きの声がありました。嬉しい言葉です。また、7つ目の「親子星」を制作した後「これも七夕のお飾り?」と聞いてきたお友だち。「今日の制作」と言う認識から、過去と繋がりそれが七夕飾りだと結びついた瞬間でした。子どもたちの今もっている五感をフル活用して様々なお飾りを作りあげました。どれも力作です!持ち帰りの日をどうぞお楽しみにしてて下さいね。そして「これはどうやって作ったの?」と夜空を見上げながら七夕の日を親子で楽しんでいただけたらと思います。

【 緑組 】

七夕制作を始めて1週間ほどたった日、一足先に手洗い場に向かう赤組さんが無言で折り紙とにらめっこしている緑組に「ねえ、何作ってるの?」「ねえ教えて～」とホールの入り口から遠慮がちに、でも好奇心旺盛に声を掛けてきてくれました。でも、緑組は真剣…。いつもなら「えっとね～」と自信満々に答えるところを、この時は余裕がないらしくしばらく誰も赤組さんの問いかけに答える子はいませんでした。そんな緑組の姿にさらに興味が沸いたのか…「ねええ、後で教えてくれなあい?」と赤組さん。するとここで「できな～い」と漸く返事をする緑組。

「だって、まだじょうずにできないから～（作り方を十分に伝えられないから）」と自分の手元から目線を外すことなく答えます。それを聞いた赤組さんが「じゃああとでおしえて!」とお願いすると…「いいよ!」と快諾、ここで更に少し要領を得た子が「ちびっちゃんアジサイつくってんの!」の追加説明。「わかった～、あとでね～」とお部屋に戻る赤組さん。なんだか、この雰囲気がとてもよくて、「縦の繋がり」が自然な形で垣間見ることができたことを嬉しく思いました。赤組が抱く緑組への興味や関心はやがて憧れに、緑組が抱く自信はやがて責任感へと変わり、互いの関係性を深めていきます。お互いに関心を持たなければ「繋がる」ことはありません。一方で繋がりたいと思って「寄せて」と声をかえても仲間に入れて

もらえなかったり、一緒に遊びが出来る友だちを限定してみたり…。「言われた側」「言ってしまった側」の立場を誰しもが経験しながら、相手の気持ちを考え、年齢に応じて考える機会を持ち、少しずつ互いを知っていくのだと思います。そして1学期の締めくくりの時期に、身近な友だちに心を開くきっかけを得て、その関係性が深まるスタートが切れたことは嬉しく感じています。「心をひらく」とは、自分にとって都合の良いことだけではなく、むしろ見られたくない、知られたくない、自信がなくて…内緒にしておきたいことを、ある時「見せてしまった」ことから始まることもあるように思います。「苦手だな」「いやだな」「こまったな」「どうしよう」という負の気持ちは繊細です。大人にだってある気持ちだからこそ、子どもたちにはどう向き合うのかを示していくことも必要になってきます。世の中は何かしら「白黒はっきり」させたい風潮のようですが、「グレー」の思考を認めることは、負の感情が前向きにできる大きな役割があると思っています。「〇〇でなければならない」という強い意志を持つことの自由と「苦手だから頑張れない」という気持ちを認めることは同等で、どちらも強いる必要はないはずです。でも、子どもたちが「わがまま」という名の主張をしたとき、その子どもの主張の不条理を大人がどう受け止めるか…。それぞれの考えのもと、「自分で考えて自分で行動する」これは、1年生になるまでに育てておきたい子どもの姿の一つでもあります。これは決して「思いのままに」「好き勝手に」ではないことを、私たちは知っています。「心をひらく」とは、ちょっぴり勇気がいることだけれど、その先に新しい自分と知らない世界への入り口にもなることを私たち自身が意識しておきたいなぁと感じる今日この頃です。

みんな大好きジャンピングの時間。5人で長い時は1時間半弱の指導を受けます。藤原先生の指導を見ていると私自身、学ばせていただくことが多くあります。楽しく面白い時間の中で、子どもの技量を見極め必要な手立てを、子どもたちが「やってみたい!」と思う形で示してくださいます。そして子どもたちが「出来た!」「すごい!」と実感できることで、自然と互いの頑張りに対して拍手する姿が見られるようになってきました。この姿もまた「心をひらく」からこそ、肩ひじ張らずに自然体で「今」を過ごしている印のようにおもいます。さぁ7月。梅雨明けの夏の空に、子どもたちの元気な声が響きますように!